

(別紙5)

整理番号 2019P-075
補助事業名 2019年度 国際交流の推進活動 補助事業
補助事業者名 公益財団法人中近東文化センター

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

日本人による古代オリエント史の「年表(文化編年)」の再構築を目指し、自らの「年表」により歴史を語ることを一つの目的とする。併行して出土遺物、遺構の保存、修復、つまり「文化財保存」に重点を置く。そして日本、トルコ、欧米の次世代を担う若手研究者を養成し、各国の若者が世界に目を向ける切っ掛けとなることをもって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

[第34次カマン・カレホユック遺跡発掘調査](#) [保存修復シンポジウム2019の開催](#)



当該年度は、保存修復のシンポジウム〈Archaeological Conservation: From Small Finds to Site Preservation Symposium 2019〉(7月6日~7日)を開催しました。シンポジウムでは、日本、トルコ、欧米の研究者や保存修復専門家により保存修復の現場が抱える問題点について活発に討論されました。シンポジウムには、24名の研究者、保存修復専門家、インターンが参加し、互いの研究テーマなどについて情報交換し合うなど、盛んな交流が行なわれました。

考古学フィールドコースは、日本人学生を対象に、2週間にわたりカマン・カレホユック遺跡より出土した様々な遺物(土製品、青銅製品、ガラス、骨など)と保存状態が良好な建築遺構を教材とし、考古学の研究者、保存修復の専門家による授業を行ないました。コース中、学生たちはそれぞれ興味のある遺物1点を選び、調査、研究し、最終日には一人ずつ遺物研究の成果を発表します。このプロセスは学生たちの今後の学びにとってたいへん大切なものであり、歴史を俯瞰して見ること、積層する文化を連続するものとして捉えることなど、考古学的視点を持って歴史、文化を考える機会となったことと思います。

当該事業は、常に「発掘調査」と「文化財保存」を中心に据えた人材の育成と国際交流を目指し

(別紙5)

ており、当該年度も大きな役割を果たすことができたと考えています。

2 予想される事業実施効果

発掘調査に参加した日本の学生たちは、卒業後、企業の国際部門で活躍する者、大学の専任講師、歴史博物館の学芸員、高専や高校の社会科教師、教育員会の文化財担当になった者や、海外に留学した学生、これから大学院へ進学する学生など、帰国後それぞれの道を歩んでいます。様々な国の人々と交流し、現地での発掘調査やフィールドコースに参加した経験が、少なからず将来に影響を与えたのではないかと考えます。これからもこの活動を継続していくことで、学生たちに将来を考えるきっかけを与えていけるものと考えております。

地元のカマンの街やチャウルカン村の青少年たちは、発掘調査に参加したこと、現場で行なわれる「考古学の授業」を受け続けたことで学問に興味を持ち、大学へ進学する者が増え、その中には教育学部へ進学し教師になって地域に貢献している学生もでています。発掘調査に参加するトルコ人学生には、考古学者や博物館学芸員を目指している者も少なくありません。彼らにとって当該事業に参加することは自らの将来を大きく切り開くことにもなり得る重要な経験です。研究所の活動は、トルコ国内においても益々必要とされていくでしょう。

人材育成には膨大な時間がかかりますが、研究所では一貫して日本、アジア、欧米の学生たちを受け入れ、地元の青少年たちに考古学の授業を行ない文化財の大切さ、歴史の見方を伝えてきました。それは、学生たちが今後社会人となる上で大きな糧となるものと考えています。

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

該当なし

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

該当なし

(別紙5)

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益財団法人 中近東文化センター

(コウエキザイダンホウジン チュウキントウブンカセンター)

住 所： 〒181-0015

東京都三鷹市大沢3-10-31

代 表 者： 理事長 阿部 知之 (アベ トモユキ)

担 当 部 署： アナトリア考古学研究所 (アナトリアコウコガクケンキュウジョ)

担 当 者 名： 事務担当 吉田 知子 (ヨシダ トモコ)

電 話 番 号： 0422-32-7665

F A X： 0422-31-9453

E - m a i l： tokyo@jiaa-kaman.org

U R L： <http://www.jiaa-kaman.org/>